

平成 30 年度バイオマス産業都市選定委員会の概要

1. 開催日 平成 30 年 9 月 4 日（火）

2. 開催場所 農林水産省 共用第 1 会議室

3. 出席者

【選定委員】

| | |
|--------|-----------------------------------|
| 酒井 伸一 | 京都大学環境安全保健機構附属環境科学センター センター長 |
| 竹ヶ原 啓介 | 株式会社日本政策投資銀行 執行役員 産業調査本部 副本部長 |
| 塚本 修 | 一般財団法人石炭エネルギーセンター 理事長（座長） |
| 中村 一夫 | 公益財団法人京都高度技術研究所バイオマスエネルギー研究企画部 部長 |
| 野村 充伸 | 株式会社フソウ 代表取締役社長 |
| 横山 伸也 | 公立鳥取環境大学環境学部 特任教授 |

【関係府省】内閣府、文部科学省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省

4. 概要

【要旨】

バイオマス産業都市選定委員会を開催し、4つの視点（①先導性、②実現可能性、③地域波及効果、④実施体制）を中心に、今回応募のあった市町村についてヒアリング及び評価を行った結果、5市町村（北海道稚内市、北海道浜頓別町、北海道幌延町、兵庫県養父市、鳥取県北栄町）を選定委員会の推薦案とすることを決定。

【主な意見等】

（1）北海道稚内市

家畜排せつ物を原料とするメタン発酵ガス発電の構想について、排せつ物の引取りや消化液の販売に係る費用負担を含め、酪農家との意見交換や意向確認が進められており、今後の取組の進展に期待する。

（2）北海道浜頓別町

家畜排せつ物を原料とするメタン発酵消化液の肥料利用に当たっては、ラムサール条約登録湿地に指定されているクッチャロ湖の環境保全の観点から、窒素分の湖への流入防止に留意の上で実施していただきたい。

（3）北海道幌延町

乳牛 100 頭程度の家畜排せつ物を原料とする小規模なメタン発酵ガス発電の構想について、採算性が確保された、他地域のモデルとなる取組となるよう、実施計画の詳細について引き続きよく検討の上で実施していただきたい。

(4) 兵庫県養父市

事業化プロジェクトの実施体制において、市が中心となり、各プロジェクトの実施主体との更なる連携の強化を図っていただきたい。

(5) 鳥取県北栄町

構想実現に向けて、プロジェクト内容の具体化を進めていただくとともに、雇用創出効果を含む経済波及効果について、測定範囲も含めて更に検討していただきたい。